

## 第 12 回名寄振興公社のあり方に関する特別委員会 概要報告

年 月 日	令和 2 年 2 月 6 日	会場	大会議室	案件	名寄振興公社の経営形態、施設整備、あり方について
出席委員	東川孝義、佐久間誠、山田典幸、塩田昌彦、今村芳彦、三浦勝秀、山崎真由美 倉澤宏				
委員外議員	高橋伸典、川村幸栄				
欠席委員					

### 審査及び報告事項

特別委員会の今後の進行に必要な資料要求について項目を確認し、次に説明員から 1 月 20 日以降の振興公社の状況及び、検証委員会としての検証内容、議論状況について報告され委員から質疑を受けた。

その後、先の議会で取り組んだ「市民との意見交換会」で出された振興公社に関わる意見や質問等の概要が報告された後、委員間議論を行った。

#### 1. 1 月 20 日以降の振興公社運営状況報告

- スキー場リフト輸送人員の状況は雪不足の影響で昨年比 11 日遅れの 12 月 26 日オープンとなり、人手不足による第 4 ロマンスリフトの運行休止等で 12 月はリフト輸送人員で 22,877 人(前年比 38.38%)と苦戦したものの、1 月は 165,170 人(前年比 110.30%)と、市外客や欧米系外国人を中心に増加しトータル 188,047 人(前年比 89.82%)となっている。
- 組織・経営体制の刷新、コンプライアンス・ガバナンスの強化、会計・経理面での改善点について、橋本社長を筆頭に、検証委員会の指導・監督が強化され、公認会計士・弁護士が月 1 回入り、関係者への聴き取りや経理面での再精査を進めている。経理補助、総務補助として 2 名を採用。
- 松木企画営業部長は月に 1 週間滞在。中国など新規開拓が進んでいる。信金OBからは財務規定、実務面での指導を受けている。現場との連絡・調整は企画営業部長、総務課長を中心に行っている。
- 取締役会は 4 人体制で、これまで 11 月 18 日、12 月 24 日に行っている。以降、2 月 10 日を予定している。
- セグメント別の会計について、より精緻なものにするべく現在取り組んでいる。
- 従業員の社会保険料(賞与・燃料手当)未払い分(H28.12~R元.6)は、年金機構に確認している。従業員の負担分は天引きが済んでいる事を確認している。
- 指定宿泊施設利用助成券の不適切利用について 3,281 件、652 万 2,000 円と判明し、1 月末日に振興公社から北海道市町村職員共済組合へ返還した。職員に対しては、利用状況の確認と合わせて、自主的な返還の協力を求めている。
- 外部委員と共に精査している 1,260 万円の不明金や東京名寄会売掛金 950 万円、H28 年度~H30 年度の決算状況の再精査については現在も作業を進めている。

- ・裁判の状況について、1月28日の第1回口頭弁論では、市と道が供託中の6,055万円の指定管理料の還付請求について、証拠書類と争点の確認を行った。次回第2回口頭弁論は3月19日に行われる。

等の報告がされた。

## 2. 委員間議論

最初に1月23日、24日に行われた「市民との意見交換会」で出された要点について委員長からの報告を受け、名寄振興公社「経営改善計画」での委員間議論を行った。

- ・セグメント別の収支が出ていない中で結論を出すのは難しい。
- ・まだ精査中で、財政投入の判断は如何なものか。いつの段階で明らかになるか。わからない中での判断は難しい。
- ・3月末までの結論付けるとなると、裁判は解決まで時間がかかる。資産と負債の状況をいつまでも見なければならぬ。改善方策の1~3までとし、存続を前提とした議論を。
- ・人災による部分と、公社の純粋な赤字部分と分けて考えるべき。施設面ではリフトなど将来的な見通しで行政の考え方を明らかにすべき。
- ・維持管理で公社にゆだねることがいいのかどうか。分散型にして民間にゆだねるなど議論が必要だ。
- ・明確になっていない所もあり、判断は難しい。存続ありきではなく、いくつかの要素に分けて考えるべき。人員配置も途上。施設整備のあり方、指定管理施設を公社が担っていく事がどうなのかを含め、一定の方向性を出すべきだ。市側の支援体制は、細部に議論が必要だ。
- ・名寄市の施設整備のあり方として、引き続き振興公社に任せるのか、市としての考え方を聞くべきだ。振興公社に任せる所と、他の部分は民間にとか、整理しておいてはどうか。
- ・指定管理の考え方は大事だ。市民から民間に任せてはとの声もある。民間にどこまで委ねるのか。今までのままという事にはならない。
- ・Nスポーツコミッションとの関係で、市の考え方を聞きたい。
- ・ゼロからではなく、マイナスから公社のあり方を考えなければならぬ。市民説明がつかないように不明なことがないように取り組みを進めて欲しい。
- ・不明な所を明確にするよう、資料をしっかりと求めたい。経営の人員体制、6施設の管理は名寄振興公社でいいのか、設備の老朽化に対する行政の考え方、民間活力の考え方、ガバナンスの枠組みなど今後の議論で整理していきたい。
- ・会派内で議論をまとめ、何が必要なのか整理してもらいまとめてもらうことが大切だ。
- ・スキー場など、設備更新にかかわる資料が必要だ。

等の議論がされた。

次回第13回特別委員会は、2月19日10時から行う事を確認し、第12回名寄振興公社のあり方に関する特別委員会を終了した。